中川根ふる里通信

＝創刊号＝

編集・発行・モア・ラブ中川根
連絡先・〒428-03
静岡県榛原郡中川根町上長尾990
中川根町役場 総務課
ふる里通信係
TEL 05475(6)1111
郵便振替口座〈名古屋〉7-81556

『ふる里通信』発刊によせて

町長　徳嶋　淳男

本年三月に行われました町長選挙において、当選の栄に浴し、再度町政を担当させていただくことになりました。今後も郷土発展のため、全力を尽す覚悟でございますので、各方面におかれましても御指導の程よろしくお願い申し上げます。

さて、皆様ご存知のように、町を取り巻く社会経済環境はますます厳しい条件の下におかれている現況にありますが、当町では本年三月、町民一体となって活力ある町づくりに取り組む指針となる、昭和七十年度を目標とした今後十年間の基本構想（町総合計画）を策定いたしました。

計画では、町の将来に向けての目標を〝水と緑に恵まれた豊かな生活のできる町〟として、生活環境の整備を始め産業の振興、福祉の充実、教育文化の向上などの重要施策を推進しつつ、物心両面に亘る豊かな町づくりに邁進することを明らかにした内容となっております。

最近はソフト面が重要視される傾向となってきており、都市と山村との交流や、ふる里志向など人と人とのふれあいを大切にする気運が高まりつつあります。この総合計画の中にもこの様な交流事業を推進する内容が盛り込まれていますが、このほど民間グループ〝モア・ラブ川根〟会員などが中心となって町外転出者との交流を深めようと、ふる里通信を発刊する運びになりましたことは、まことに時宜を得た好企画であると思います。

人それぞれの事情があって町から移り住んでいる方も、故郷中川根の動向など少なからず関心をもっておられるのではないでしょうか。今後はこの誌面を通じ、旧交を暖め、親睦を図るなど、ふる里を見直す契機となれば結構ではないかと存じます。

皆様の良き故郷中川根となりますよう、これからなお一層のご指導ご協力をお願いしてごあいさつにかえさせていただきます。

（写真提供・トンボヤ写真店様）

下長尾より上長尾方面，白羽山，山々を望む

第1回 中川根中学校

昭和30年代の事でしょうか。始めて中川根に赴任された先生が申されました。『中川根には、学校が沢山あるのですね』その時代、小学校9校、分校2校、中学校2校、分校1校、総勢14校あった学校も統合されて、現在、小学校4校、中学校1校となっております。幼少の頃、思春期の日々、懐しい思い出の母校は、今どう変っているのでしょう。シリーズでおととけします。

昭和38年設立 校舎、北西より望む

なつかしの木造校舎、上長尾小より

旧校舎及中.中.学校施設全景

"中川根中学校の変遷について"

久野二郎

旧中川根中学校、徳山中学校とも昭和二十二年四月にそれぞれの旧国民学校の校舎を使用して開校してから、もう三十九年になりました。初代校長は前川喜一先生、勝山三郎先生でした。昭和二十五年、二十四年に、それぞれ間借り生活も終って独立の木造三階建校舎が落成して、名実ともに中学校になったのでした。

その後、昭和三十八年四月両校は統合され、中川根町立中川根中学校となったのですが、新築中の鉄筋三階建の校舎がまだ完成していなかったので、公民館や旧上長尾小学校の一部を借りて授業をしていたのでした。昭和三十八年十一月に新校舎の大部分が完成し、二、三年生が移り、翌年には一年生も新校舎に移ることができました。四十年には管理棟も完成し、職員室も移ることができたのでした。

立派な校舎、堂々とした体育館ということで見学者が多かった新校舎も、二十年を経たばかりなのに、予測される東海沖大地震に耐えられないと判定され、校舎を全面改築しました。

新校舎は、昭和五十九年十二月に落成しました。この校舎は旧運動場に、鉄骨造三階建で作られ、プラザや屋外ステージを作り、校舎前と校舎南側に豊かな植栽を実施し、落ちついた環境をつくりました。旧校舎のところに卒業記念事業で作られた記念樹や築山は、小学校との間になる南側に集められて、立派な庭園に生れ変っています。

教室や学年スペース、コモンスペース、音楽室や図書室にはカーペットを敷き、新しい教育方法に対応できるようにしてあり、又、学年スペースと教室との間仕切りは動かすことのできる(オープン教室方式)新しい方法を取り入れてあります。

総工事費は六億円余りがかけられた果下でも、数少ない立派な中学校でありますが、残念なことに、生徒は年々減少し、昭和六十一年度は二七八名です。生徒たちは、素直で明るく元気な子どもたちばかりで、今問題とされている"いじめ・非行・など一件もなく、学習に、部活動に励んでいます。

中川根町高郷に住んでおられる久野二郎先生は、長い間教鞭をとられて、幾多の教え子を社会に送り出しておられましたが昭和五十三年中川根中学校、校長を最後に退職され、現在は、中川根町教育長の地位にあられます。かつて教壇で数学をおしえられた時と変わらない若さと、誠実さで中川根町の教育の為に日々、貢献されておられます。

なお、現在の中川根中学校の校長先生は、上長尾の高畑 智先生です。

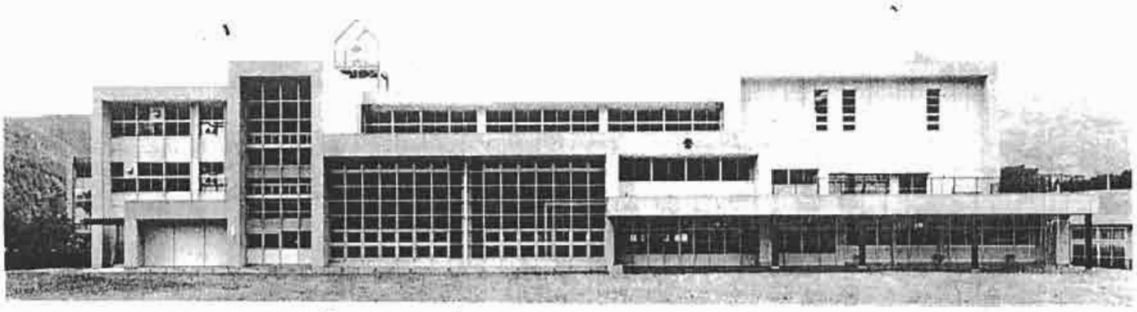
連載　母校は今

オープン教室での授業風景

先生も生徒も大声で陽気にやってます。

休み時間や放課後は生徒でいっぱい
〃コモンスペース〃

高い天井は想像の空間、木目の美しい壁、
淡い落ちついた色彩のカーペットがほどこされております。



新校舎全景（北側運動場より望む）

『山びこ』『杉の子』『赤石』この表題は何だったか思い出しますか？　そうです北支部小・中学校の文集です。昭和二十四年の創刊より三十数年の歴史を経て、昨秋五十号の記念特集号が発刊されました。創刊より四十号の間の参考作品十題も掲載されておりました。

その中に昭和二十四年に建設されました、統合前中川根中学校の建設の様子が描かれた　山本麗子様の「私達の中学校」の作品がございました。

長尾川の河原、畑を埋め立て、民家を移動させての大工事、村人と生徒と力を合わせて作られていく様子を紹介させていただきます。

〃ある日先生より「全生徒が下泉橋から学校敷地まで瓦を運ぶ」と言う事を言われました。夏の日ざかり、めいめい背負う子、又はリヤカー自転車で運搬する事は、私達には中々重荷でありましたが、背負っている瓦がたとい少部分であっても私達の中学校の雨露しのぐ屋根になることを思うと運ぶ苦労もわすれました。〃

人それぞれに思い出のある中川根中学校舎は、時代の波・諸々の事情で、意外と短期間に建てかえられていく事が判りますが、新制中学校以前に中川根の文教を巣立った人々をふくめて、母校の変遷は、一抹のさびしさ、時の流れを感じる事と存じます。

さて新校舎、は県下でも数少ない、すばらしい建築物です。未来二十一世紀を担う若者達の学び舎がさんさんとそそぐ太陽を受けて　いつまでも、輝いていてほしいと願います。

次回〃母校は今〃シリーズは藤川小学校を予定しています。

又　町内小・中学校の思い出や、写真などありましたら是非投稿・御連絡下さい。　お待ちしております。

川根文集よりの転用に付きましては、発行人の先生に許可を得て掲載させていただきました。全文を載せられなかったことおゆるし下さい。

中川根町特産品振興会（藤田 達夫会長）

四季の里　4月29日オープン

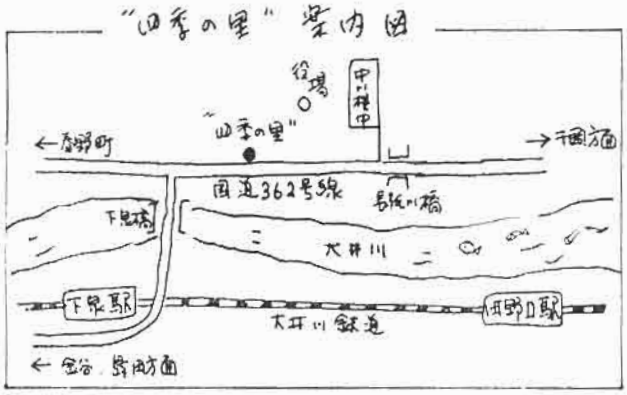
〈火曜日〉

〈祝オープンで賑わう"四季の里"店頭〉

農林生産者と消費者の
"出会いの場"
中川根の多くの皆さんの協力で
運営される機関です

店長は藤森文江さんです

"四季の里"案内図



ふれあい広場
四季の里
中川根特産品販売所
静岡県榛原郡中川根町下長尾507
TEL〈05475〉6－0542　〒428-03

"四季の里"をよろしく

発起人代表
モアラブ中川根
原田 金修

中川根町は伝統の地場産品である「川根茶」の生産が経済基盤になっていますが、近年、地域振興の高まりの中で新たな特産品の開発研究が進められてきています。

お茶の時期のみでなく、四季折々の特産品を国道を通過する人々に提供したり、また町出身者で都市部に住んでいる方々、あるいは中川根町に「ふる里」を求めて下さる方々に対し、**「ふる里の香り」**を提供できるシステムを作りたいという全町的な盛り上がりの中でこの**"四季の里"**が誕生したものです。

"四季の里"はお客様の声を大切に扱い、農産品のみでなく、これらを応用した加工品、たとえば「中川根の手打ちそば」「中川根の田舎こんにゃく」「中川根のわさび漬」、また、竹製品、間伐材応用製品、民芸品、山菜を活用した郷土料理等の販売を**"四季の里"**を通して行っていきます。

また、最近の都市近郊の方々の自然志向に応えて、森林レクリエーション（オリエンテーリング、五杯谷等）観光農林園（茶摘み民泊、椎茸狩り、栗拾い、山菜狩り等）の整備促進とあっせん・紹介なども計画していきます。

中川根町では、農林観光面においては、「自然と調和した観光」の拠点づくり、「花いっぱい運動」による町全体の公園化、川根三町と業界共同による「川根茶業センター」の建設計画、大札山・山犬段観光ルートづくり、ブルーベリー・コロ柿・ゆずなどの新作物特産化計画等が構想され、既に一部は着手されております。

"四季の里"は、中川根町の将来計画にもマッチさせた考えの下スタートしたものですが、さらには9川根四季の里づくり構想B（仮称）として、文化面、環境面についても包含した「村おこし」構想の中の一テーマとして存在しているものです。

来る、四月二十九日（火）正式オープンをいたします。
是非共、皆様の御来店、御利用をお願いいたします。

『ゆるいばた』

―いらっしゃい、
ゆっくらくつろいで――

今はむかし

風が吹く、杉の花粉が舞う。森林浴、常浴の町に
クシャミを こらえ 目をショボつかせた 良い男が
ツインカム 何とか バルブの ターボ チャージャに 体を 斜に
かまえて、制限速度 30キロの街並みを 何キロ オーバーか 定かで
ないが 走り抜ける。「もう少しの辛抱だ、あと ひと月もすれば
横南から 茶摘の娘達が 上ってくる」。お茶を 200 貫もつめる
茶農家に 5～6人の茶摘さんは 常識だ。これを迎える
中川根村 青年団、手ぐすね引いて 待つこと しばし、クシャミが 出たんじゃ
ヤバイ、目をショボつかせて いたんでは 闇に紛れて 行う 大事業
他人に こされては なるものかと、あの手、この手の 思案を 胸に
ついに射止めし いとしの 娘。アレルギー、花粉症も 知らない 昭和元禄
男さかり。こうして 結ばれた 幸せ カップルが 何十組 いることか。
今じゃ 闇に紛れて 行う 諸行は たちまち 御用。月日の たつのは
早いもの 今は 我が子も お嬢頃 引く手数多の 純情ギャル
ナウイ 娘 探して アクセル ふかす ツッパリ 坊主。テレビの普及で
田舎も 都会も 外面的には 大差は ないが 素朴さと、
義理と人情に 欠かない 真の日本人の住んでいる 町 〝中川根!!〟
まだまだいる、都会ナイズ されない 乙女の宝庫 〝中川根!!〟
〝君〟この夏、ふる里に帰って見ないか？
今宣言する「ビテカントロプス エレクトス」中川根に健在なりと。

（ふじたすすむより）

〈現在の大井川の姿〉

連載"大井川を考える"

―第1回 流域住民の視点―

縄文人を私共の直接の祖先、と考えました時、私共は数千年の大井川とのつきあい、ということになります。

縄文人は大井川が形成した安全な日当たりのよい丘（河岸段丘）にきまって生活の痕跡を残しております。

太陽と水、これらは人間の生活に必要不可欠で常日頃感謝を忘れてしまうほど、私共の生活に密着しております。

もう皆さんご存知の様に、大井川上・中流域には通常ほとんど水が流れておりません。大雨の際のみ、本来の大井川の姿をとり戻しますが、その水が濁み、美しい流れとならないまま、又水無川となってしまいます。

大井川の開発は、地域の発展に貢献し、今後なお、広域・広範な人々に寄与していく計画を聞いております。

ただ、その開発に伴い、本来の大井川がどのような状態になっても放置しておくのでは本当の意味の開発ではない様に、流域住民の1人として実感する訳です。開発は、本来の川の機能に即した上で行われるべきです。

私共、流域住民にとって、大井川は父であり、母である様な唯一無二の川なのです。

今、地域では、大井川の問題を、後世に悔いのない様引き継ぐため、真剣に考え始めました。

大井川をご存知の皆さん、行政当局の皆さん、関係企業の皆さん。皆さんとよりよい〈大井川〉のため、知恵を出し合い進みたいと願っております。

どうぞ、皆さんご意見をお寄せ下さい。御意見を反映させながら、この『大井川を考える』シリーズも続けていきたいです。（長塚 誠）

四季の里から
竹細工教室のお知らせ

お盆に開催予定。講師は中川根町地名の滝東男氏。

昆虫や笛を作っておられます。

申し込み、問い合わせは四季の里まで。

史跡紹介 ① 小嶽天神

東風吹かば

堀畑 和已

小嶽天神様の境内にある三十本余の梅が今年もきれいに咲いた。世が変わり、そこに住む人が代わっても、菅原道真公の木彫りのご神体も本殿も庁屋も昔のまゝの姿をそこにとどめている。

二月二十五日、六月二十五日の臨時祭、十月二十五日の本祭りは遠い昔から絶えることなく続けられている。

その時代、その時代に生きた老若男女が、祭りの日にはこの境内にあい集い、生きることの喜び苦しみを語り合い、飲み、食べ、歌い、踊ったであろうことが思い出されてくる。

私の子供の頃は、子どもが二十人余もいた。本祭りの前夜は明日を待ってなかなか寝つかれない夜もあった。学校が終わると息急き切って家に帰り、一番よい服に着替え、貧しい暮しの中でくれる僅少の小遣いを大事に握りしめてお祭りに行った。そして、駄菓子屋が境内に出す出店で、花火を買い、ペッタンを買い、あめ玉を買ってはしゃぎ回った。

秋の日が西に傾く頃になると、父親達の酒気が最高潮に達し、歌や踊りの中に、笑い声と怒声が混じり、それに子供達の歓声が溶け合って一種独特のムードが狭い境内に満ち溢れた。

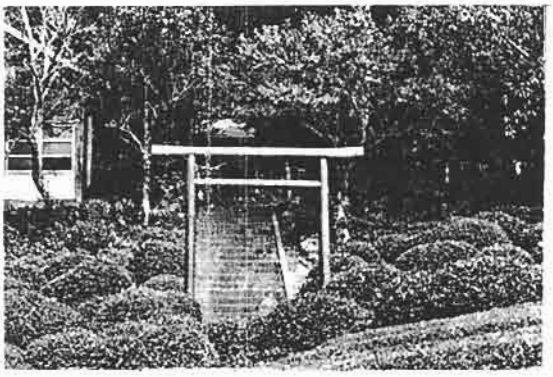
日が落ち肌寒くなると、三三五五家に帰って行った。そして、この日を期に一家挙げて秋の収穫に精を出したのである。

昔、二十人余もいた子供達も、今は高校生一人の部落になってしまった。しかし、学問の神様である関係から、大学、高校への入学祈願、そして、合格のお礼参りにと訪れてくれる人は年々増し、奉納くださる梅の献木は境内にいっぱいである。

東風吹かば 匂おこせよ 梅の花

主なしとて 春な忘れそ

一人境内に立ち回想にふける時、ふとこの歌が浮んできた。頭上では『ホーホケキョ、ホーホケキョ』とウグイスが鳴き、囀音も全くなく、とてものどかである。遠くふる里を離れ、それぞれの職場でご活躍の皆様、『主なしとて春な忘れそ』ふる里を思い出したり、訪れたりしてください。益々ご健康でご発展あらんことをお祈り申し上げます。



通りゃんせ、通りゃんせ、ここはどこの細道じゃ。
天神さまの細道じゃ、ちっと通して下りゃんせ
ごようのないもの通しゃせぬ、この子のセツのおいわいに
お札をおさめにまいります。いきはよゝよい
かえりはこわい、こわいながらも通りゃんせ
通りゃんせ

「緑と水とSL」に囲まれた

中川根自然キャンプ村

クリーンなイメージのキャンプ村です。
手ぶらでお出掛下さい。

- バンガロー 15棟
- 貸テント 30張
- キャンプ施設完備
- キャンプ用品全部あります
- 収容人数 500名可能です

連絡先 中川根自然キャンプ村管理棟
TEL〈05475〉6-1406
中川根町商工会内キャンプ村係
TEL〈05475〉6-0231 井沢まで

塩郷ダム

みんわ … でんせつ … みんわ … でんせつ … みんわ … でんせつ … みんわ … でんせつ …

悲恋の里　恋の代（小井平）

啄木の歌

ふるさとの山に向かいて
言うことなし
ふるさとの山はありがたきかな

ふるさとは遠きにありて思うもの、よしやうらぶれても……。啄木の心が身にしみてきます。ふるさとの山はありがたきかな。思い出の山、思い出の川。

ここ中川根は伝説の宝庫、あの山のふもと、この川のほとり、先祖の思いがこめられた伝説が、いっぱい残されています。

次の伝説は、町の北端、榛原川のほとり、小井平に伝えられる悲しい恋の物語です。古老からの聞き書きをそのまゝ記します。

恋の代

小井平というところがあるが、ほんとは恋平というんだよ。昔々、戦に破れた落人が、妻と仲むつまじく住んでいたと言う。山の中だもんで猟師をして暮らしを立てていたのだよ。冬の寒いある日、犬を七十五匹もつれて、榛原川の山奥に入っていった。だいぶ山深く入って行くと、雪んね、雪ん降りつもって、とじこめられちゃった。山の中から出れんようになってしまっただよ。何日も何日も山にとじこめられちゃっただよ。自分の犬を一匹、また一匹と殺して、食って生きのびた。どうしてでも生きねばならないからね。

何日も何日も、だんなさんの帰ってくるのを待ちこがれた奥さんだったが…。山ひとつ越えた裏山に出てね、そこを恋の代って言うだが…。そこに立って、毎日、だんなさんを呼んだ。山奥に向かって、呼ばっても、呼ばっても、何んの答もない。たゞ返ってくるのは山の恐しいこだまだけだった。食うのも食わず、やせ細った奥さんは、だんなさんを恋いこがれて死んでしまった。

だんなさんも、とうとう川島という所、川の中に島があるところで、七十五匹目の犬も食いおわり、飢えと寒さのため死んでしまった。今でもそこに山の神を祭ってあるね。ほこらを建てて、山の神を祭ったところが、たくさんあるね。奥さんの柏木を祭ったところは、柏木大明神というよね。

（長浜　亮二郎）

諸有
桃山為一　昭和三五年十月一日
中川根町　藤川六七九

まつり　まつり　まつり　まつり　まつり　まつり

町内祭ご案内　8月までの巻

4月29日　新茶まつり　下泉グランド　AM 8:00～
グリーンティオリエンテーリング大会　下泉グランド　AM 10:00～
四季の里オープン（福島下）　13:30～

5月は　茶つみ本番　お祭りお休み
6月も　2番茶がんばり　〃

7月14日　瀬平流したい［わら作りの流し台を大井川へ流し、津島神社へ奉納］

23日　水川観音堂祭典［お堂の天井や欄間には、花鳥や竜、天女が美しい色彩で描かれていますが、お堂がいたんできました。何かよい方法はありませんか。］

30日　徳山地蔵堂祭典［むかしから子どもの守り神、今も子どもたちはお地蔵様となかよしです。］

8月1日　智満寺大祭

9日　智満寺観音堂祭典［町文化財千手観音］
ごえいかや金おどりやります

15日　徳山浅間神社祭典（徳山のほんおどり）
県指定無形民俗文化財（芸能）
鹿ん舞い、ヒーヤイ踊り、
狂言、が行なわれます。

鹿ん舞いは、その年20才の男衆で伝えられていましたが、現在は、徳山地区の中学生によって引き継がれております。

『中川根ふる里通信』創刊にあたって

モア・ラブ川根　原田金修

大井川の川縁に生える柳の芽も一段と緑の色を濃くし、今、中川根町は、懐しい母校の庭の、普現寺への参道沿いの、町の中、畑の中の至る所に吉野桜が咲き誇っております。

巡りくる季節は、長い冬から待ち焦がれていた春を届けてくれました。川根はこれから、新茶の香りが一杯の季節を迎えようとしております。

ふる里を離れてお暮らしの皆様、また、中川根町をふる里と思って下さっている皆様、御元気で御活躍のことと思います。

お懐しい皆様方に、四季折々の"ふる里中川根"のふんい気を少しでもお届けしたい。中川根の情報をお知らせしたい。そして、皆様方からの御意見や、皆様方の御活躍の情報をいただきながら、この『通信』で話し合いをしたい。また、ふる里中川根を大いに寄り所としていただけたら、との願いをこめて、この度、町当局の後援を仰ぎ『中川根ふる里通信』を創刊することになりました。

都市近郊は短期間に大きな変転を見せておりますが、我が中川根町は、皆様の脳裏にあるイメージとそんなに大きな変化は見せておりません。即ち、昔ながらの自然がそのままの形で相当数存在しております。

私共は、この中川根町の自然さ、素朴さを誇りに思っておりますが、今までは、この素晴らしさを私共だけで独占してきた嫌いがあります。この反省の上にたって、これからは皆様に、ふる里中川根を大いに利用していただける様工夫していきたいと思っております。

ゆっくりではありますが、中川根は自然と整合しながら周辺環境の整備を行い、皆様に楽しんでいただけるような施策を進めております。

このような情報も、この『通信』により年四回皆様のお手元に届かせていただきたいと思っております。どうぞ"ふる里中川根"を愛し続けて下さいます様お願い申し上げます。

定期購読のお願い

『中川根ふる里通信』は有料（1号分 千共 ¥100）発行です。
皆様の定期購読申込が
この『通信』の発行を支えます。
お申し込みは郵便振替口座を
ご利用下さい。

申込先　〒428-03
榛原郡中川根町上長尾990
中川根町役場総務課
ふる里通信係
振替口座　名古屋 7－81556

4号分予約 ¥400の振込を
おすすめいたします。

投稿歓迎

『中川根ふる里通信』は町内外の友達の中で作られます。
いくつもの往復書簡がこの『通信』の中から生まれてくれれば……。
あるいは もっと生活的情報でも能面の許す範囲でインフォメーションいたします。
季刊誌を目ざしていますので次は7月発行の予定。
さまざまなアイデア、ご意見、原稿をお待ちしています。
※自筆の原稿、オリジナルイラスト、カット、写真も掲載可能です。

モア・ラブ中川根から

・モア・ラブ川根ふる里づくりは、五年前三川根地域活性化の為に作られたグループです。住みよい町造りの為に色々な意見を出し合ったりふる里まつりに参加したりしてきました。

・現在モア・ラブ中川根は二十人位のグループで"静から動"への行動を始めました。"四季の里"づくり、"グリーンティオリエンテーリング大会"、"ふる里通信"発行の三部門が同時進行しております。

会員からのメッセージ

◎あなたの生まれ育った中川根で、私達は頑張っています。
お休みの日には若葉の香りあふれるふる里へ
よもぎもち・柏もちおいしいよ　松本匠

◎会員では一番の若年者二十五才です。若年者の意見の注入口として参加しています。ヨロシク　中村和彦

◎中川根をより活力のある町にしたいと、がんばっています。
今回は、OL大会"を担当しています。　杉山嘉英

◎中川根に生まれ育ち三十年・活力ある住みよい町になることを願い、お茶づくりにがンバッテいます。　坂本政司

以下次号へつづく

編集室より

町内在住のさまざまな方々の御紹介により、中川根を巣立った皆様にふる里だよりをおとどけする事になりました。全国各地それぞれの分野で御活躍の事と思います。

めまぐるしく変化して行く現代社会の生活の中、ふと、ふる里を思い出す期会になれば幸です。何分にも素人の編集・発行ですから、お見苦しい点、お粗末な内容かと存じますが、ふる里を愛する思い情熱を汲み取っていただきたいと願います。

きびしかった冬もさり、川根路は年中で一番美しい季節をむかえます。もうすぐ新茶の時期四月初めの寒さで成育状態が心配ですが何はともあれ、町が一番活気に満ちる時をむかえます。

今後とも中川根ふる里通信をよろしくお願い申し上げます。

編集発行責任者　静岡県榛原郡中川根町上長尾八五九－六
小沢節子

印刷・川根印刷所